

第7回 海岸勉強会メモ

日時:平成20年7月9日(水)

19:00~21:00

会場:住吉公民館

[参加者]

- ・一般の方：29名
- ・行政担当者等：21名（宮崎県：河川課・港湾課・宮崎土木事務所・中部港湾事務所、
国交省：宮崎港湾空港整備事務所・宮崎河川国道事務所、宮崎市：土木課）

(1) 前回までの宿題返し

- ・試験養浜の詳細については、地元説明ができていないため説明できません。
(宮崎河川国道事務所海岸課)
- ・海浜地形の経年変化(グラフ)を提示 (宮崎河川国道事務所海岸課)
- ・離岸堤設置水深、養浜量等について (宮崎土木事務所)

(2) 港湾および宮崎港の役割と浚渫について (県港湾課)

【質疑応答】

前回までの宿題返しについて

- ◇ 「海浜地形の経年変化(グラフ)」やその他のデータをどう読み取るか、住民らの解析する力も大事。(参加者)
- ◇ グラフに記載してある汀線の後退幅(20m~40m)よりもはるかに長い(100m以上)の砂浜が消失したと思う。(参加者)
- ◇ 試験養浜を地元説明する際、「地元」をどう捉えるのが大事。(参加者)
→現在、ダンプ搬入ルート沿線への地元説明を考えている。(国)
- ◇ 養浜について他流域から土砂をもたらすのは反対。(参加者)
- ◇ 昭和10年代から海岸をよく知っている。当時は遠足にも行っていたし、軍用機が砂浜から離発着するのも見ている。(参加者)

港湾関連

- ◇ 台風のあとに浚渫しているのか(参加者)
→台風のためではない。しかし災害復旧という位置づけで掘削する場合、台風の後ということになる。(県)
- ◇ 宮崎港ができるまでは、現在とは逆で台風後に砂浜が広がって(堆積して)いた。宮崎県は高速道路の整備が遅れ、港湾が発展したのではないか。(参加者)
- ◇ 南防波堤は曲がったヘッドランドと捉えることができるのではないか？(結果的にヘッドランドの機能を果たしていると言えないか？)
- ◇ 今後宮崎港の計画は宮崎海岸の侵食への影響も考慮したものとなるのか？行政間でよく調整を図っていただきたい。(参加者)
- ◇ H15に港湾計画が改定されH20年代後半の完成を目指すとのことだが、今後また改定の予定があるのか？

→計画改定の予定は現在のところない。(県)

◇ 砂浜のある海岸に港を造った例はどれくらいあるのか。

◇ 宮崎港の「費用対効果」を示してほしい。

→費用はわかるが、効果の算出が難しい部分がある。(県)

【次回以降の予定等】

・ 第8回勉強会は、平成20年8月7日(木) 住吉公民館 19:00～

・ 第7回までの積み残された宿題について説明する。

※離岸堤の台風前後の様子。また、高さと沈下量、移動量。

※トンボロ効果の説明。

※港湾で沖捨てを実施した箇所の水深。またその時期や理由。

※港湾の維持浚渫を実施した年月日(マリーナ浚渫)

※港湾区域の現在の等深線。

※港湾の費用対効果

・ 次回懇談会、委員会の議事内容を次回勉強会時点で整理できていれば説明する。

・ 次回懇談会、委員会の日程は HP で公表し記者発表も行うが、勉強会に参加されている方々には別途通知する。また懇談会により多く方が参加してもらおう、周知、募集手法等を検討する。